

ナンバリング分野別コードの一般ルール

- ① 本学の科目領域に依拠した区分から分野別コードを選択する。
 - ② ①が難しい場合に、日本学術会議の分野別委員会に依拠した区分から分野別コードを選択する。
 - ③ ①、②が難しい場合には、部局ごとに分野別コードを作成する。
- ※ 学部開設科目は、可能な限り①、②の分野別コードに割り当てる。

①本学の科目領域に依拠した区分	②日本学術会議の分野別委員会に依拠した区分
哲学・倫理学	哲学
芸術	—
心理学	心理学・教育学
社会学	社会学
教育学	心理学・教育学
歴史学	史学
文学	言語・文学
言語学	言語・文学
法学	法学
政治学	政治学
経済学	経済学
経営学	経営学
数学	数理科学
地球科学	地球惑星科学
物理学	物理学
化学	化学
生物学	基礎生物学、統合生物学
地理学	—
統計学	—
情報科学	情報学
医学	基礎医学、臨床医学
看護学	—
英語	—
初修外国語	—
日本語	—
健康・スポーツ実技	—
	地域研究
	農学
	食料科学
	健康・生活科学
	歯学
	薬学
	環境学
	総合工学
	機械工学
	電気電子工学
	土木工学・建築学
	材料工学

分野名称(①+②)	コード (半角大文字・英数3桁)	元の表記
哲学・倫理学	PHL	philosophy/ethics
芸術	ART	art
心理学	PSY	psychology
社会学	SCL	sociology
教育学	PDG	pedagogy
歴史学	HST	history
文学	LTR	literature
言語学	LNG	linguistics
法学	JRS	jurisprudence
政治学	PLT	politics
経済学	ECN	economics
経営学	BSN	business administration
数学	MTH	mathematics
地球科学	ERT	earth science
物理学	PHY	physics
化学	CHE	chemistry
生物学	BIO	biology
地理学	GEO	geography
統計学	STT	statistics
情報科学	INF	information science
医学	MED	medicine
看護学	NRS	nursing
英語	ENG	english
ドイツ語	DEU	deutsch
フランス語	FRA	français
中国語	CHN	chinese
韓国語	KOR	korean
日本語	JPN	japanese
健康・スポーツ実技	SPR	sports activity
地域研究	RGO	regional research
農学	AGR	agriculture
食料科学	FDS	food science
健康・生活科学	HLT	health/family and consumer science
歯学	DNT	dentistry
薬学	PHR	pharmacy
環境学	ENV	environmentology
総合工学	GNR	general engineering
機械工学	MCH	mechanical engineering
電気電子工学	ELC	electric and electronic engineering
土木工学・建築学	CVL	civil engineering/architecture
材料工学	MTR	material engineering

+

③部局独自分野	コード (半角大文字・英数3桁)	元の表記	提出部局
主題A	THA	theme A	大学教育基盤センター
主題B	THB	theme B	大学教育基盤センター
主題C	THC	theme C	大学教育基盤センター
アカデミックリテラシー	ACL	academic literacy	大学教育基盤センター
高度教養教育科目	LAA	liberal arts course (advanced)	大学教育基盤センター
広範教養教育科目	LAC	liberal arts course (comprehensive)	大学教育基盤センター
音楽	MSC	music	教育学部
保健体育	HPE	health and physical education	教育学部
高度教職実践科目	TPF	teaching professionals	教育学研究科
公衆衛生看護学	PHN	public health nursing	医学部
養護学	SHN	school health nursing	医学部
分析方法論系科目	ANM	analytical methodology	地域マネジメント研究科
地域公共系科目	RPA	regional public administration	地域マネジメント研究科
地域公共系・経営系の融合科目	RGM	region & management	地域マネジメント研究科
その他	OTH	other	

3. シラバスのフォーマット

ナンバリングコード： 授業科目名（時間割コード： ）	科目区分	時間割	対象年次及び専攻
	水準・分野	DP・提供部局	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態	単位数	
担当教員名	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間			
授業の概要			
授業の目的			
到達目標			
成績評価の方法と基準			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書・参考書等			
オフィスアワー			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

(シラバスの記載例)

ナンバリングコード： 授業科目名 (時間割コード： 財政学特殊講義 Topics in Public Finance	科目区分 自由科目	時間割	対象年次及び専攻 1～ 経済学研究 科
	水準・分野 M3ECN	DP・提供部局 ABXE	対象学生・特定プロ グラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 香川 一郎	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、租税論、経費論、地方財政論の各分野からトピックを適宜選択する。受講者は、担当教員から解説を聞き、新聞や雑誌の記事を調べ、参考書を読み、自らの考えをまとめて、レポートを書き、他の受講者と話し合う。 例えば、令和2年から所得税の給与所得控除が引き下げられ、基礎控除が引き上げられた。これにより、給与等の収入金額が850万円を超える給与所得者の租税負担が増え、事業所得者の租税負担が減った。これはどのような政策的課題への対応なのだろうか。			
授業の目的 日本の租税制度、歳出予算、地方財政には様々な政策的課題がある。それらについて、財政学の見地からなにが政策的課題の要点なのか、どうすれば政策的課題を解決できるのかを聞き、読み、考え、書き、話すことによって、それらに関する専門知識に加えて、研究能力の基礎を身につける。			
到達目標 1. 日本の租税制度、歳出予算、地方財政の政策的課題について、その要点を適切に説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 日本の租税制度、歳出予算、地方財政の政策的課題について、その解決策を適切に提示できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法と基準 レポート75% (主に到達目標1に対応)、発表及び討議25% (主に到達目標2に対応)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回 オリエンテーション：日本の財政 第2回 租税論①：所得税 第3回 租税論②：法人税 第4回 租税論③：消費税 第5回 租税論④：相続税・贈与税 第6回 経費論①：社会保障関係費 第7回 経費論②：公共事業関係費 第8回 経費論③：文教及び科学振興費 第9回 経費論④：防衛関係費 第10回 地方財政論①：地方税 第11回 地方財政論②：地方交付税交付金 第12回 地方財政論③：国庫支出金 第13回 地方財政論④：地方債 第14回 発表と討議① 第15回 発表と討議② 【授業及び学修の方法】 授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と討議を取り入れる。また、租税論、経費論、地方財政論の最後の回にレポートを課し、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促す。第14回と第15回には、受講者が発表し、討議を行う。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第2～5回 租税制度を扱った新聞や雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。(1時間×4回) 租税制度に関する参考書を読み、日本の租税制度の政策的課題を考察する。(10時間) 日本の租税制度の政策的課題について、その要点をレポートにまとめる。(4時間) 第6～9回 歳出予算を扱った新聞や雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。(1時間×4回) 歳出予算に関する参考書を読み、日本の歳出予算の政策的課題を考察する。(10時間) 日本の歳出予算の政策的課題について、その要点をレポートにまとめる。(4時間) 第10～13回 地方財政を扱った新聞や雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。(1時間×4回) 地方財政に関する参考書を読み、日本の地方財政の政策的課題を考察する。(10時間) 日本の地方財政の政策的課題について、その要点をレポートにまとめる。(4時間) 第14～15回 自ら選択した政策的課題について、その解決策を発表資料にまとめる。(6時間)			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は第1回の授業で指定する。			
オフィスアワー 木曜日2時限(10:40～12:00)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

(シラバスの記載例)

ナンバリングコード：M2AGR-ABXA-60-Lp2 授業科目名 (時間割コード：123456) 園芸育種学特論 Advanced horticultural Breeding	科目区分	時間割	対象年次及び専攻 1年 農学研究科全専攻
	水準・分野 M2AGR	DP・提供部局 ABXA	対象学生・特定プログラムとの対応 60
	授業形態 Lp	単位数 2	
担当教員名 香川 一郎	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	授業90分×15回 + 自学自習		
授業の概要 植物品種、特に園芸品種の開発および変異の拡大法について解説するとともに、園芸作物の最重要形質の一つである色と病害抵抗性に焦点を当て、その発現様式と遺伝資源を活用した育種について最近の研究成果を交えながら解説する。また、それらの知識を活用して、課題解決のための議論を行う。			
授業の目的 有用形質を有する植物遺伝資源の活用は、食糧供給ならびに生活環境の改善における重要課題の1つである。本講義では、農学を修得した高度専門職業人として必要な知識・能力の1つとして、園芸作物の遺伝資源利用と品種改良に関する最新の技術・知見を理解するとともに、それらの知識を応用し、現状の園芸作物の生産・品種開発における課題探求・問題解決ができる能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
1. 園芸作物の品種改良に関する最新の技術・知見を説明できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 園芸作物の品種開発に関する現状の課題に対して、対策を示すことができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法と基準 レポート(50%) (特に到達目標1に対応)、ディスカッションでの発表・検討の内容(50%) (特に到達目標2に対応)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義には液晶プロジェクターを用いる。			
第1回 品種とは 第2回 遺伝資源と多様性 第3回 交雑育種と遠縁交雑 第4回 染色体操作と遺伝子組換え 第5回 色の発現機構 第6回 色素の生合成 第7回 病害抵抗性を目的とした育種 第8回 病害抵抗性と台木の育成 第9回 色に関する育種目標 第10回 色の発現に影響する要因 第11回 色の発現改良に有効な育種手法 第12回 色の発現改良を目的とした品種改良 第13回 病害と育種目標 第14回 病害抵抗性の付与に有効な手法 第15回 病害抵抗性に関する品種改良 レポート作成			
以上の計画に関しては、進捗状況、内容の理解度等によって変更することがある。			
第1～8回は講義形式で行う。第1～4回は、植物育種に共通の事項であり、事前に関連事項について予習しておくとともに、関連する最新の論文を調べる。第5～8回は、特定の育種目標に関することであり、授業で紹介した文献を読むとともに、関連の事例を調べる。第9～12回および第13～15回はディスカッションを主体とし、それぞれ第5～6回および第7～8回の内容に関する質疑応答に加えて、講義内容に関連する課題を受け、学生自身が中心となって考えて、その課題解決に取り組むProject-based learningを取り入れた形式とする。第12回および第15回の具体的な課			

題については、第8回までの授業時に提示する。なお、昨年度は「〇〇〇・・・」と「△△△・・・」を課題として提示した。

教科書・参考書等

講義に直接使用する教科書・参考書はない。必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 木曜日13:00～14:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

参考資料の出典等

資料2

出典: 香川県健康福祉部健康福祉総務課「健やか香川21ヘルスプラン 香川県健康増進計画」

関連ホームページ: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/kenkodukuri/health/digest.html>

資料3

出典: 香川県健康福祉部医務国保課「第七次香川県保健医療計画」

閲覧元ホームページ: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/imu/iryokousou/sub21.html>

資料4

出典: 香川県政策部統計調査課「香川県人口移動調査結果(令和元年分)の概要」

関連ホームページ: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/tokei/jinko/jinkoido/2019jinkoido.html>

資料5

出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」

閲覧元ホームページ: <http://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2019/gaiyo/gaiyo.pdf>

資料6

出典: 一般社団法人全国訪問看護事業協会「2019年訪問看護ステーション数調査結果」

閲覧元ホームページ: <https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/r1-research.pdf>